

【各試合の結果・詳細】

第1試合

Selrio島根 1 $\begin{pmatrix} 0 & -1 \\ 1 & -1 \end{pmatrix}$ 2 東京農業大学

勝点 8
2 勝 2 分 6 敗

勝点 9
3 勝 0 分 7 敗

<得点>

Selrio島根 : 56分恩田

東京農業大学 : 7分松井、61分丹内

<戦評>

Selrio島根のセンターパスで試合が開始される。早々にセル島根はPCを得るが、東京農業大学の一番騎がクリアし得点には至らない。試合が動いたのは7分、東京農大は右サイドのFHから素早いパス回しでサークル内に侵入し、最後は#5松井が押し込み先制する。追いつきたいセル島根も反撃を開始し攻め込むシーンも増えるが、得点には至らない。前半終了間際の34分に東京農大が得たPCもゴール左に外れ、東京農大の1点リードで前半を折り返す。後半に入り序盤は東京農大が主導権を握るものの徐々にセル島根もペースを掴み始める。52分、東京農大はサークル右からシュートするが惜しくもゴール横ポストに当たる。そして迎えた56分、東京農大のクリアミスで#15恩田が押し込み同点とする。続く58分、セル島根はPCを取得するが東京農大キーパーがこれをセーブする。そして61分、東京農大の速攻から#26岩崎がサークルトップ右でヒットシュート、#16丹内がそのボールをタッチし追加点をあげる。それが決勝点となり、2-1で東京農大が勝利した。

テクニカルオフィサー	松下 正寿	アンパイア	竹内 高広
ジャッジ	西松 孝治		高橋 英行

第2試合

岐阜朝日クラブ 1 $\begin{pmatrix} 1 & -1 \\ 0 & -0 \end{pmatrix}$ 1 ALDER飯能

勝点 20
6 勝 2 分 2 敗

勝点 19
6 勝 1 分 3 敗

<得点>

岐阜朝日クラブ : 8分辻

ALDER飯能 : 28分竹下

<戦評>

ALDER飯能のセンターパスにより前半が始まる。3分、岐阜朝日クラブはPCを取得するもフリックは右に外れる。続く8分、岐阜朝日はPCから#14辻がタッチシュートを決め先制点をあげる。その後も序盤は岐阜朝日が猛攻を仕掛けAL飯能が守る展開が続く。しかし次第にAL飯能も攻撃の糸口を掴み始める。28分、AL飯能はスピードあるドリブルで右サイドをえぐり、センタリングを#7竹下が押し込み同点へと追いついた。後半に入ると、両チームともに攻撃の激しさを増し、随所で激しいボールの奪い合いが繰り広げられる。試合も終盤に差し掛かった67分、AL飯能はPCを得るがリバウンドは左に外れ勝ち越しゴールを奪えない。そして迎えた69分、岐阜朝日はPCを取得、AL飯能の反則により試合はラストワンプレーのPCへと続く。ここで勝ち越したい岐阜朝日であったがフリックはキーパーに止められ同点のまま試合は終了する。

テクニカルオフィサー	西松 孝治	アンパイア	小原 直也
ジャッジ	一谷 徹		元宗 宏寿

第3試合

立命館大学ホリーズ 2 $\left(\begin{array}{c} 1 - 0 \\ 1 - 2 \end{array} \right)$ 2 名古屋フラーテルホッケーチーム

勝点 23
7 勝 2 分 1 敗

勝点 28
9 勝 1 分 0 敗

<得点>

立命館大学：22分田中世、69分村上

名古屋フラーテル：58分川上啓、63分橘

<戦評>

センターパスは名古屋フラーテルホッケーチーム。開始直後は立命館大学ホリーズの時間。所々に名古屋Fのパスカットからの速攻が目立つも最後まで繋がらない。互いに牽制しあう状態が続く中、最初にチャンスをものにしたのは立命館大。22分、パスワークからサークル内左サイドへ侵入し、#8堀江から#16田中世へゴール横へのパスが繋がり先制点をあげる。続く24分にも立命館大はチャンスを作るがあと一歩のところでは決まらない。対する名古屋Fも隙あらば攻めに転じる。そして30分、名古屋Fはパスカットからサークル内へ進入する。しかしシュートは枠を捉えきれない。

後半に入り互いに攻撃が激しくなる。なかなかチャンスをものにできなかった名古屋Fだが、58分、センターライン付近からのFHを、#8塩川がサークルトップで軌道を変え、それを#11川上啓が華麗にタッチし得点をあげる。続く63分、名古屋Fの攻撃からのこぼれ球を#17橘がサークル中央からヒットシュートで追加点をあげる。このまま試合が終わるかと思われた69分、立命館大はセンターリングのこぼれ球を#29村上がプッシュで決め、土壇場で同点に追いついた。そのまま試合は終了し、2-2で引き分けとなった。

テクニカルオフィサー	松下 正寿	アンパイア	近藤 聡史
ジャッジ	一谷 徹		戸塚 洋介

【各試合の結果・詳細】

第1試合

天理大学ベアーズ 1 $\begin{pmatrix} 0 & - 0 \\ 1 & - 1 \end{pmatrix}$ 1 診療印刷

勝点 20
6 勝 2 分 2 敗

勝点 2
0 勝 2 分 8 敗

<得点>

天理大学 : 60分山城
診療印刷 : 37分横田

<戦評>

前半は、診療印刷のセンターパスで試合開始。天理大学ベアーズは、速いパス回しからサイド攻撃を仕掛け、センタリングからの得点を狙った。天理は、MF#9落合が15分、20分にシュートを放つが得点につながらない。一方、診療は、前半終盤に右サイドからの攻撃を仕掛けるが、天理GK#28井川の好セーブで得点できない。その後、天理は26分、31分と2度のPCを取得するが、得点にならず、0-0で前半を折り返した。
後半開始2分、診療は、FW#7佐藤のサークルトップへのパスからFW#9横田が強烈なヒットシュート、守備者が弾いてゴール左下に決まり、先制した。その後も、天理の猛攻が続くが、診療の堅い守備に阻まれ、なかなか追いつくことができない。天理は、後半14分にPCを取得し、ドラッグフリックでのローシュートを狙うが、得点できない。同点としたのは後半25分、天理FW#5甘利の左サイドからのセンタリングをFW#30山城がゴール右中段にダイレクトシュートで見事に決め、振出しに戻した。後半終盤は、両チーム一進一退の攻防となり、サークル内での激しい攻防が多くなった。診療は、昨日に引き続き引き分けとし、勝ち点2を挙げた。

テクニカルオフィサー	国兼 実	アンパイア	西間庭 浩
ジャッジ	松原 和朗		野澤 達

第2試合

小矢部REDOX 1 $\begin{pmatrix} 0 & - 1 \\ 1 & - 0 \end{pmatrix}$ 1 山梨学院OCTOBER EAGLES

勝点 10
2 勝 4 分 4 敗

勝点 11
3 勝 2 分 5 敗

<得点>

山梨学院 : 34分宇野
小矢部R : 61分太田

<戦評>

小矢部REDOXのセンターパスで試合開始。序盤は山梨学院OCTOBER EAGLESが優位に試合を進め、積極的な攻撃をみせた。対する小矢部Rは決定的なピンチを防ぎ、徐々にボールを支配するようになっていった。17分には速攻から決定的な場面を作るが、山梨学院GKの好セーブに阻まれる。その後、山梨学院は守備からのカウンター攻撃で何度かシュートチャンスを生演出。前半終了間際34分、右からのパスをFW#21がプッシュシュートで決め、山梨学院が1点リードで折り返した。
後半に入っても山梨学院は果敢に攻め、小矢部Rゴールを脅かす。しかし、小矢部RのGK#28中村が再三の好守備で得点を許さない。勢いを取り戻した小矢部Rは、61分山梨学院GKが弾いたボールをFB#4太田が押し込み、同点に追いつく。その後は一進一退の攻防となり、タイムアップのホーンが鳴る。

テクニカルオフィサー	中村 康夫	アンパイア	宮川 敏充
ジャッジ	国兼 実		木下 英貴

第3試合

法政大学 1 $\begin{pmatrix} 0 & -1 \\ 1 & -2 \end{pmatrix}$ 3 福井クラブ

勝点 3
1 勝 0 分 9 敗

勝点 17
5 勝 2 分 3 敗

<得点>

法政大学 : 68分小島

福井クラブ : 34分為国、53分渡辺、63分為国

<戦評>

試合開始早々、両チーム激しいプレスディフェンスからチャンスをつくるが決定力を欠き、両チーム無得点のまま20分を経過した。前半25分、法政大学は、カウンターからチャンスを作りサークルトップで強烈なシュートを放つなど、再三チャンスをつくるが福井クラブのGKの攻守の阻まれ、得点することが出来なかった。両チームチャンスを生かせないまま前半戦が終了すると思われた前半終了間際の34分、福井クラブはPCを獲得し、#2が一人目のDFをかわしてドラッグシュートを決め、福井クラブが1点をリードして前半を終了した。

後半戦に入っても一進一退の攻防が続くが、攻守に勝る福井クラブが後半18分、スクープパスからチャンスをつくり、右サイドをドリブルで回り込んだ#1のセンターリングを#27がタッチーシュートを決めた。その後も福井クラブは試合を押し気味に進め、後半28分にはPCから#2が得点を決め、3-0と試合を優位に進めた。一方、法政大学は、後半33分、自陣ゴール前からカウンターのチャンスを作り、#5がドリブルシュートを決めるが、3-1でゲームを終了した。

テクニカルオフィサー	中村 康夫	アンパイア	細川 祐司
ジャッジ	松原 和朗		見玉 茂樹